LUZ の熊野古道案内

2009 年　10 月　中

10 月 13 日　～　18 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００９年　１０月

10 月１３日　災害現場　熊野古道・松本峠
10 月１４日　松本峠　災いを福に・・・鬼ヶ城も・・・
10 月１５日　木本神社秋の大祭　神輿　**1**
10 月１６日　木本神社秋の大祭　神輿　２　汐掛け
10 月１７日　木本神社秋の大祭　神輿　**3**　宮入
10 月１８日　熊野古道再開　松本峠

2009 年　10 月　13 日

熊野の旅　災害現場　熊野古道・松本峠

上の写真に写っている石垣は、本来石垣ではないのです。
熊野古道の石畳が９０度回転して、下から見上げると石垣のように見えるのです。
横の大きな木を見てください。ゴロンと横になっているでしょう。
これが、先日の１８号台風で道端の木が『根返り』して熊野古道を壊した現場です。

普通の目線で見るとこんな状態で、道の部分をそっくり抱き込んで根っこごと杉の木がひっくり返ったのです。
だから、路面の石畳がまるで石垣のように見えるのです。
１８号台風は、このすぐ沖を通過してゆきました。
台風としては普通程度のものですが、直撃は久しぶりでした。
この台風は来る時よりも、通り過ぎてからの「返しの風」が強く、長い物でした。おまけに、普通は空っ風になる「返しの風」の時も、猛烈な雨を伴いましたね。
木本では、屋根をごっそり持って行かれるとか、瓦を丸裸にされると言うような被害は出ていません。部分的な被害は続出です。
老朽家屋が多く、昔ほど屋根の手入れや葺き替えなどしない、管理が出来ていない家が多いのにこの程度で済んだのですが、駅前に抜ける道脇の岩山の木やこの松本峠の木のような長年、風雨に耐えてきた木の方に被害が出ています。
台風が驚異的に大きかったと言うよりは、こうした里にある山の手入れ、管理ができていなかった面もあります。

この松本峠の杉の木の場合、すぐ横の山が伐採されたのに、この道脇の木々だけを残したのも原因なのです。
すぐ横の山の木々が大きかった時には、この木が山の始まり…山の斜面の一部に見えたのです。
しかし、後ろを切ると、この道端の木々だけが一段高く聳える形になり、風を全部受け止めることになります。

　そんな条件で育つ木はそれなりの心構えで、根の張り方も変わるし、枝ぶりもその条件にあわせます。
　しかし、松本峠ではこの数十年はその必要も無かったので、木の方も油断するところもあったでしょう。

　この現象は、私たち林業家といわれる種族ではみんな経験することなのです。
　山を伐採する時、素性がよく、今回の伐採を見送って、次回伐採する５０年、８０年先まで残して、更に大木で良い木（二代木、三代木）にしようと何本か残すことがあります。
　運が悪く、数年のうちに大きな台風が来ると、その残した「残し木」がこのように「根返り」したり、ボッキリ折れたりするのです。
　だから、この災害も林業家から見れば、起きるべくして起きたことなのです。たまたま、運が悪く、伐採のすぐ後に風向きの悪い台風が来たと言うことなのです。

　「人間の足」と言う物は良く出来ているので。ほんのわずかに残った道の端っこを使って行き来できるので。この状態でも松本峠を歩くことは可能です。
　ものすごい崖のところで起きた物だと、残った部分にのるのは怖いですが、これならずり落ちても大した事は無いでしょう。
　役所も「通行止」の看板は出しましたが、通れない方向に綱を張らず、わざと通れるように張ってありました。
　災害復旧工事に入るときには仮設の歩道を確保するのでしょうね。
　工事としては難しい物ではないですが、今までの石を拾い集めての補修をするのでしょうか？
　「世界遺産」という金看板があるのできちんと「石畳」には戻すと思います。
Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-10-13 10:17

2009 年　10 月　14 日

熊野の旅　松本峠　災いを福に・・・鬼ヶ城も・・・

松本峠の倒木と道の破損はそんなに大層なものでは無いので割合と早く復旧工事がされると思います。

道は直っても、杉の木を直す事はちょっと出来ないでしょう。

私のブログの写真に何度も登場した杉の巨木が消えた後に何を植えるのやら…

上の山を切って明るくなり、下の木も無くなって、この区間はすっかり明るくなります。

丁度この場所は、七里御浜が良く見える場所です。

峠から展望台に行ってきた人は、七里御浜から紀伊山地のすばらしい眺めを堪能してきているのですが、そちらに回らなかった人は、ほとんど見えない状態で山を降りています。

この辺りで、木々の間に見え隠れするその風景は足元ばかり見て下っている人の目には入らないこともあります。

しかし、この２０メートルほどがすっぽり開けると、いやでも目に飛び込んでくるでしょう。

このように倒れた杉の木の先には七里御浜が見えているのです。

復旧してもしばらくはこの光景が見えるようになります。

なんだか、似つかわしくない物を植えなければ良いのですけどねえ。

倒れちゃった物は仕方ないので、自然に出来た展望所だと思うしか無いでしょう。

幸いなことにこれが原因で、「山腹崩壊」が起きる心配も無さそうですしね。

それに、一番入り口の何本かは残っています。

それより、今度の倒木の一つの要因になったこの禿山の方が気になりますね。

木を育てる事はもう無いでしょうからね。

国や県が買い取ったと言う話も聞きませんし…

イベントひとつ分くらいで買えると思うのですがねえ。

鬼ヶ城の遊歩道も破壊されたようです。
随分長い間通行止めになっていて、ようやく通行可能になったばかりですが、、又、通行止めが始まったのでしょうね。
資材の搬入も人力に頼るこの周遊道の復旧の方が大変でしょう。
「松本峠」は「熊野古道」ですから予算も取りよいですが、「鬼ヶ城」は特別天然記念物ですから、手も加えにくいでしょうしね。
昔は一段低いところに周遊道が設定されていたので、ほんの少しの波でも通れなかった物です。「飛び渡り」なんて難所には木で作った簡単な橋があっただけなのです。
その当時から、そうしたものはすぐに流されていましたね。

私が高校時代ごろにははっきりと人力で刻んだ遊歩道が見えていた、波に洗われる、「下の道」もたった半世紀足らずでほとんど見えないほど侵食されています。
石英粗面岩？…砂岩のような岩なので、風によっても風化が進むのでこうなるのでしょうが、意外と早い物です。
鬼ヶ城や獅子岩を刻むのも、気が遠くなるほどの長い年月でもないのでしょうね。
人間にとって長いだけなんでしょう。

訂正・・・
写真にある倒木は『桧』です。

Tags:熊野古道 石畳 七里御浜 by **je2luz** | 2009-10-14 11:01

2009 年 10 月 15 日

熊野の旅　木本神社秋の大祭　神輿　1

日本の祭りで代表的な出し物は『神輿』でしょう。

『神輿』は神様が乗って社から出るものです。

まあ、「お召し列車」みたいなものですね。

精巧に組み立てられたミニチュアの社に補強と装飾をかねた金具が付けられ、大体においてキンキラキンのものが多いです。

そして、重さも見掛けより重くて、１トンを越す物がざらにあります。

重いみこしを大勢の若い衆が担いで練り歩く勇壮な姿が見せ場になるわけです。

神様が乗っている事はどうも忘れられがちなようです。

見物人はもちろん、『みこし』が『神輿』であることすら忘れている人が増えていますし、担ぎ手も少々忘れそうになるようです。

『ダンジリ』『山車』は人間が乗っても構わないのだそうですが、「神輿」には乗っちゃあいけないのだそうです。

このトラブルで、東京の『三社祭』の神輿が一年中止になった位ですからね。

木本神社の祭りの進行は恐ろしく遅いので、県警から派遣されてくるお巡りさんがあきれるのですが、先頭の新出町「だんじり」から始まって後ろが離れてしまわないように宿所のほかに細切れに止まってしまうのですが、この神輿も中々進みません。

木本神社の出立ちはお昼の十二時過ぎですが、６００ｍほど離れた新出町稲荷に入るのが午後４時ごろです。時速２００ｍほどなんでしょうね。

昔は結構荒れる神輿で、家の軒を削ったり、ぶっつけたりしたのですが、近年は一応おとなしく？なっています。

何しろ、本町通りは狭いですから、ちょいと練ればぶつかるのです。

神輿をぐるりと回すなんてことも出来ない幅ですからね。

この町の幅は昔から変わっては居ません。路面が「世界遺産」になってから石畳になっただけです。

　かくして、神輿の最初の目的地の「新出町稲荷」まで、このような若い衆の集団、『神輿奉仕団』が担ぐのですが、最早、木本町の若い衆では賄えなくなっています。
　それに、昔の若い衆と違い、体が大きくても『腰を切る』コツも知らないし、『肩を使う』と言う事には慣れていないので、持ち上げるのも、担ぐのも大変そうです。
　これは全国共通でしょうね。

　昔は、娯楽も少なかったからでしょうか、木本祭りを見物に近在からもやってきて、この狭い本町筋の唯一安全に見られる軒下には一杯人が居た物なのです。
　しかし、近年ではその民家から出てくる人も多くて二人、ほとんどが一人だけだし、他所からの人も減ったし…
　見物するには進行が遅く、動かない時間が多い出し物なので退屈でしょうけどね。
　見物人の方が移動して見て回っていますからね。
　そうすれば３０分ほどで全部見られます。

　神輿は、稲荷さんで一休みしたあと、浜に出て、海の汐で清められます。
　その光景は結構様になるので見物人とカメラマンが増えます。
　明日はそれを載せます。

Tags:熊野市 世界遺産　　by **je2luz** | 2009-10-15 11:37

2009 年　10 月　16 日

熊野の旅　木本神社秋の大祭　神輿　２　汐掛け

今は中々前に進まないとは言え、「神輿」がちゃんと「神輿」として町中を進みます。

一時期、「担ぎ手が居ない」と言う理由で、「神輿」が台車に乗って巡行したことがあります。これでは、「神輿」ではなく「山車」みたいな物ですね。

近年になって、担ぐように戻され、「神輿」が「神輿」に戻ったのです。

『神輿奉仕団』は昔なら「親地町」を中心とする「木本の若い衆」で組織され、これに入ることが名誉であったものなのですが、今では木本では賄えなくなって、木本に遠のある若者で近在に住んでいる人に声を掛けて確保に努めてきていました。

今年は「新鹿」からも参加していたようです。

このようにして、「氏子に担がれて」と言うものではなくなっていますが、これは何も、ここ「木本神社」だけではなく全国あちこちで起きていることでしょうね。

じっくり時間をかけて、木本神社の社を出た「神輿」は午後４時頃に「新出町稲荷」に到着し、その境内で神事をしてからしばらく休憩します。

奉仕団の若い衆たちは稲荷さんの正面にある出口から七里御浜に出て腹ごしらえをします。

しかし、酔っ払っているものは飯どころではなく転がっていますね。

この時間には順次到着した各町内の出し物の参加者も浜に出て、町内ごとに用意した酒と弁当で腹ごしらえをしています。

これから先、自分の町内まで行進しなければならない長い旅が待っているのです。

神輿は夕暮れになると「稲荷さん」から担ぎ出されて、浜に出ます。

浜に出た神輿は波打ち際まで出て行き、潮水をかけて清められます。

まさに、清めの『塩・汐』です。

今年は波も静かで「汐掛け」もスムーズに行われました。

　こうして海水で清められた「神輿」は丘に戻り、木本神社を目指して帰りはじめます。
　この岐路も台車で帰ったこともあるし、波打ち際を帰ったこともあるし、変更はあったようです。
　帰りにかかった神輿が巡行を終えて神社に帰るのは日付が変わる頃になるのです。
　出発から１２時間と言う長丁場になる神輿なのです。

　最後に神輿がどうなるのか…
　木本の住民でもほとんどの人は見たことも無いし、知らないのです。
　私も４０年ほどここに住んでいて、一度も夜の神輿は見ていませんし、最後の神社への「宮入り」の様子は知りませんでした。
　役町である新出町でも今の役員さんは誰も見たことも無かったのです。
　そこで、私がカメラを肩に夜１１時半頃から木本神社に行って来ました。
　飲んだくれの感じの強い神輿ですが、最後はえらく真面目できちんとした神事を行っていました。　　その光景は、明日、掲載します。

Tags:熊野市 七里御浜 木本神社　　by **je2luz** | 2009-10-16 11:14

2009 年　10 月　17 日

熊野の旅　木本神社秋の大祭　神輿　3　宮入

お昼に神社を出発した『神輿』は夕方の浜出しと汐掛けを終えてから、また、延々と時間を掛けて神社に帰ります。

　各町内の出し物も、それに合わせて自分の町に帰ってゆくのですが、神社で解散ではなく、自分の町に付いた時点で解散ですから随分差があるようです。

　一番遅いのが『神輿』で、毎年、神社に帰って納めるのが丁度、夜中の１２時ごろです。

　私の町内の新出町は祭りの先頭を「だんじり」を引いて歩きますから、朝の出立ちは一番早いのですが、解散も午後３時ごろになります。

　子供が居た頃でも、祭り当日は当たり前に夕食を食べ当たり前にお風呂に入ってと言う生活でした。そして、夜が更けてきたときに『号砲』が鳴ります。これは、「神輿」が無事にお宮さんに帰ったという合図です。　このお宮さんにみこしが帰った時の様子は、私も木本で暮らして４０年ほどですが見たことが無かったのです。

　神社に着くと「神輿」はすぐ脇の宿所の前で休んでいました。

　休むと言っても、リーダーがハンドマイク片手に伊勢音頭を歌い続け、あまり休んでいると言う雰囲気ではないのですけどね。

　時間調整しているのでしょうか、十二時直前になると「神輿」は鳥居をくぐってお宮さんに入ります。

　ここまでは、二灯のストロボをくっつけて撮影してきたのですが、この先は境内での神事的な部分であろうと言うことで、ストロボを停止しての撮影に入りました。

色温度の調整などなしでやりましたから、画面が赤くなっていますが、あえて、色を戻す事はしません。

境内で少し練ったあとで、神輿は下ろされ、拝殿の玄関口に押し付けられます。
神輿の高さや幅が玄関の高さと同じくらいなので結構難しそうです。
こうして、玄関に無理やり神輿を押し込むのは、この次の「神事」のためです。

こうして横付けされた「神輿」…神様の乗り物…から、神様が降りて『神殿』に帰られるのです。

この神事では、『神様』…『御神体』が見えないように、みこしと『神殿』とを結ぶように白い幕が張られます。

みこしを担いできた奉仕団の若い衆も、全員頭を垂れて静かに神様が渡り終えるのを待ちます。

酔っ払っていて、ふらふらしていた者もこの時はきちんと立ち上がっておさまっています。

かくして、木本神社の祭りが万端、終了するわけです。

この最後の瞬間が「締まっている」ので結構良いものでした。

ただ、あまりにも遅いので、見物人があまり居ないのです。

近所の人以外には、神社の役員さんとか以外の人は、若い女の子だけです。

この若い女の子たちは、「神輿奉仕団」の嫁さんや彼女なんです。
晴れ姿を見るのと、危ない神輿担ぎが心配で一日付いて回った女たちです。
若い衆が一日頑張れるのも、この子達のおかげなのかもしれません。

Tags:熊野市 熊野古道 七里御浜

by **je2luz** | 2009-10-17 11:49

2009 年　10 月　18 日

熊野の旅　熊野古道再開　松本峠

我が家の庭先から見た『松本峠』です。
少しばかり霞んでいる一昨日に望遠レンズで引っ張ったのでやっぱり霞んでいます。　　今外に出て撮り直せばもっと鮮明なはずなのですが…

先の１８号台風で道の脇の木が倒れて、路面も無くなり、一応、通行止めの標識のあった「熊野古道・松本峠」は、仮設の通路が確保され、通行可能になったようです。
まだ、倒木の撤去とか災害復旧工事、復元工事の予定は決まっていないようです。
我が家から見ても、真ん中に見える小屋の右側に木の無い部分が確認できます。双眼鏡なら倒れた木も確認できますが、２００ｍｍ（３００mm 相当）の望遠レンズでははっきりとは確認できません。

大きく路面を破壊した災害ですが、崩壊して土砂が無くなったとか、石畳の石が無くなったというものではありません。
路面が倒木の根っこと一緒に９０度回転したような物です。
小苗の木ならそのまま引き起こして、足元をトントンと踏み固めればおしまいなのですが、何しろ大木が三本ほど並んでひっくり返ったのでそうは行きませんね。
一部の雑木なら、枝を徹底的に払ってしまって、引き起こして据えなおせばもう一度生き返るでしょうけど、桧と杉の老木では無理でしょうね。

木の撤去には大型重機が入らないので手間取るでしょうけど、工事自体はそんなにたいしたものでは無いので、取り掛かれば割合と早く終れるでしょうね。
「世界遺産」ですから。「災害復旧予算」も取りよいでしょうからね。
「修復計画」の方が大変かもしれません。
なんと言っても、「道」以外は民有地だと思いますからね。
『世界遺産・熊野古道』はほとんどの部分、『民有地』です。
せいぜい、道の部分が『赤道』と言われる、公有のものになっているだけです。
「国立公園」なども同様で、昔から。いろんな問題を引き起こしてきた物です。
狭い日本ですから、登記が無いとか公有地だなんて物は少ないですからね。

復旧工事が始まっても、通行するのはハイカーだけですし、どんどん通って工事に支障が出るようなものではないですから、観光が差し止められる事は無いと思います。
待たされても、ほんの数分…程度かと思います。

Tags:熊野市 世界遺産 熊野古道 by **je2luz** | 2009-10-18 10:59